

知事とのふれあい対話（徳之島地域）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
野生生物の食害について	<p>イノシシによる食害はもとより、生息数が増えたアマミノクロウサギによる食害が農家を悩ませている。現在、イノシシ用の防護柵はあるが、ウサギはその編み目をすり抜ける。捕獲、駆除ができないため、共生する道を探す必要があり、そのためにはアマミノクロウサギの侵入を防止できる防護柵の設置が急務である。現在のイノシシ侵入防護柵を利用するなど、新たな侵入防止策の設置をお願いする。</p>	<p>徳之島における鳥獣害への対応については、イノシシが山から下りて農地に侵入しないように、国の交付金を活用して、侵入防止柵を設置してきたところである。</p> <p>近年、アマミノクロウサギによる農作物被害が増えています。既存のイノシシ用の柵は網目が大きく、アマミノクロウサギの侵入を防ぎきれない課題があるため、たんかんの幼木をビニル資材で覆うことなどを内容とするマニュアルを配布し、研修会などで農家に指導しているところである。</p> <p>また、アマミノクロウサギに対応した侵入防止柵の設置にあたっては、設置を希望する地域や柵の種類など、要望内容を踏まえた対応をする必要があることから、まずは町を通じて大島支庁に御相談ください。</p>	農村振興課
有機農業の専門的な普及員の育成について	<p>有機農業については、通常よりも手間とコストがかかり、安定した生産が難しい。今後、有機農業者の育成にあたり専門的な指導員が不可欠であり、有機農業の専門的な普及員の育成に力を入れていただきたい。</p>	<p>有機農業への支援体制については、県域で活動する有機農業担当の普及指導員を始良・伊佐地域振興局に設置し、各地域の専門分野担当の普及指導員等と連携しながら、講習会や技術支援等を行っています。</p> <p>地域において農業者への有機農業に関する助言指導を行う人材を育成するための研修会を開催し、普及指導員や市町村、JA職員を有機JAS指導員として育成しているところです。また、農業開発総合センターにおいて有機農業の技術マニュアルを作成しています。</p> <p>有機農業に関する農業者からの相談対応については、今後とも徳之島事務所の普及指導員が窓口となり、広域普及指導員や農業開発総合センター普及情報課の農業専門普及指導員と連携を取りながら、迅速に対応してまいります。</p>	経営技術課
普及員の人員確保について	<p>農業青年の育成では、技術や経験、知識が乏しいので、経営面や技術面等の普及員のサポートが重要になる。徳之島の農業発展には普及員の指導が不可欠のため、普及員の人員確保をお願いする。</p>	<p>普及指導員については、本県農業推進のためにも必要だと認識しておりますので、引き続き人員確保に努めてまいります。</p> <p>また、農業者のニーズや高度化・多様化している地域農業の課題等に対応できるよう、国が実施する研修も活用しながら普及活動の経験年数等に応じた体系的な研修を実施し、普及指導員の育成に努めてまいります。</p>	経営技術課
自給飼料に係る補助等	<p>国が支援している価格補填制度の拡充（全国の子牛の平均価格を下回った場合、国がその9割を補填してもらった補助金制度）について、支給時期が遅く、もう少し早いタイミングでいただきたい。</p> <p>制度資金の返済猶予について、畜産業には設備投資、先行投資が少なからずかかるが、個人農家でやるにはあまりにも莫大な金額になっている。</p> <p>国が進めてきた増頭計画で個人農家が借金をした分、鹿児島県として何かどういうふうな方向性を向いて、前を向いていったらいいのか教えていただきたい。</p>	<p>県においては、農家負担の軽減を図るため、「肉用子牛生産者補給金制度」等の生産者積立金の一部助成を実施しています。</p> <p>加えて、「肉用子牛生産者補給金制度」の保証基準価格の見直し、「優良和子牛生産推進緊急支援事業」の継続、和牛生産基盤の維持・強化に必要な「優良繁殖雌牛更新加速化事業」等の予算確保について、県開発促進協議会等を通じ、国に対して要望しました。</p> <p>国からは、令和7年度はこれらの支援の継続が見直しに加え、新たに「和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業」の措置が公表されたところです。</p> <p>制度資金の返済に係る支援について、県においては、各地域振興局・支庁に営農相談窓口を設置しており、個別の経営状況に応じて①既往債務の返済猶予や、新たな資金の借入等の助言、②長期・低利の借換資金の紹介のほか、関係団体と連携した経営診断や経営改善指導を実施しています。</p>	畜産振興課
牛肉の消費拡大について	<p>徳之島では毎月子牛競りが開かれており、競り市場には県外の方、県本土の方含めて毎月来島する。肥育農家が扱っているお肉を、我々生産者とともに、毎月の競り市場の中で消費拡大を行っていきたくと考えているが、県として何か協力できることがあれば、またアイデアがあればお伺いしたい。</p>	<p>国においては、和牛肉の新規需要開拓の取組や、和牛肉関連イベント等における和牛肉の消費拡大当の取組を支援するため「和牛肉需要拡大緊急対策事業」を措置しています。</p> <p>県においては「和牛といえば、鹿児島県産。」のイメージの定着を図るため、「和牛日本一鹿児島」をキャッチコピーとし、食肉事業者や「和牛日本一鹿児島応援店」に登録された飲食店等へののぼり、ポスターを提供し、観光客をはじめ県民にも広くアピールし、消費拡大に努めているところです。</p> <p>また、首都圏においては、和牛肉の需要が高まる年末年始に、首都圏主要35駅及び羽田空港において、「和牛日本一鹿児島」のPRを集中的に行いました。広告掲載と併せて令和6年12月23日～令和7年1月23日に鹿児島県産和牛プレゼントキャンペーンを実施しています。</p> <p>今後とも、県産和牛の消費拡大や販路拡大・認知度向上に努めてまいります。</p>	畜産振興課

知事とのふれあい対話（徳之島地域）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
畑総事業について	徳之島の特色の1つは赤土であり、赤土ジャガイモはとても価値あるものと実感している。農家の潤いのためにも、畑総事業を行う際には、赤土でない場所でも赤土で農業生産できるようにしていただきたい。	ほ場整備（農地の区画整理）工事では、事前に工事区域内にある表土を確保し、新しい区割りが仕上がった段階で集積している表土を戻しているところ。しかし、工事区域内で表土が確保できない場合は、経済性（受益者負担）や土質条件を考慮して区域外からの搬入を検討しますが、土質など期待に沿えないこともありますので御理解ください。	農地整備課
離島が故にプラスされる経費の緩和について	離島は本土から品物を仕入れる際、通常価格に輸送コストがプラスされる。また、農家によっては有機JASの資格を取得して頑張ろうと考えている方もいるが、資格取得費用として旅費等含めて30万円ほどかかるそうである。離島が故にプラスされる経費の緩和を考慮していただきたい。	有機JAS認証経費については、国において経費の一部を助成する支援策が措置されています。支援策によって要件等が設定されていることから、町を通じて大島支庁へ御相談ください。	経営技術課
離島の畜産農家への支援	私たち奄美群島の肉用牛農家の後輩や子どもたちが後を引き継ぎたいと思えるような環境づくりをお願いしたい。そのためにも、これまでの県の支援に加え、離島というどうしても肥育農家からすれば牛を買いに行きにくい場所に対して、離島に特化した支援を国から引き出せないか、知恵を絞っていただきたい。我々群島民が島で暮らすことで、有人国境離島を維持して、それが国防の一端を担っている我々も認識している。農林水産省予算と言わず、防衛省への働きかけなども念頭に入れながら、島に人が住む、稼げる環境を整えることに力をいただきたい。	国においては、肥育農家等の和子牛購買者に対して、「肉用牛経営安定補完事業」により、大島地区で取引された肉用子牛を本土までの輸送する経費の3分の2を支援しています。また、繁殖農家の経営安定対策として「肉用子牛生産者補給金制度」や、同制度を補完する「優良和子牛生産推進緊急支援事業」が措置されています。これらの支援に加え、令和7年度は「和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業」が措置されることが公表され、離島等における奨励金が大幅に増額されたところ。県としては、関係機関・団体と連携してこれらの事業を推進し、引き続き、肉用牛農家の経営安定を図るとともに、生産基盤の維持・強化に努めてまいります。	畜産振興課
沖縄との連携強化について	サツマイモに関して、群島及び沖縄はアリモドキソウムシの関係で本土に出せないリスクがある。やっとなんか先々月ぐらいから沖縄に10トンぐらい出荷しているが、沖縄県産よりは価格が低い。農業における奄美、沖縄連携強化について、サツマイモ生産及び出荷に関わる貯蔵庫及びキュアリング倉庫について県の考えを伺いたい。	奄美群島と沖縄との連携については、令和6年度から奄美群島農林水産物等輸送コスト支援事業を拡充し、県本土への持ち込みが制限されているサツマイモを含め、奄美群島から沖縄本島への輸送費を新たに助成対象としたところ。なお、貯蔵庫及びキュアリング施設の整備については、国の補助事業等の活用が考えられますが、事業ごとに採択要件がありますので、具体的な要望につきましては、町役場や大島支庁へ御相談ください。	かごしまの食輸出・ブランド戦略室 離島振興課
輸送コスト対策のための港湾、道路の整備について	大学を卒業させた後、子どもたちに農業を継いでくれてという方がおらず、後を継ぐ人がいなくて、農地が荒廃していく状況が続いている。自身も新規就農しても5年たったら借金が膨らんだ。原因を考えた際、本土との価格競争を考えた場合、価格がどうしても負けてしまうという点がある。そのようなことから、大量高速輸送ができる船がつけような港湾施設を徳之島に作っていただきたい。この取り組みにより、価格競争の上ではその輸送コストが下がるのではないかと考える。1度に大量の輸送がされることを考えれば、競争力がつき、これから農業をつがせたい人たちが後を継がせることができる見通しが立てられるのでは考える。長期計画になると思うが、徳之島の経済的な発展は、高速輸送港湾施設と徳之島を縦断するような輸送道路・産業道路をなんとか国も含めて行政の方で考えていただきたい。	徳之島地域の道路整備については、島内を循環する主要地方道伊仙亀津徳之島空港線等の整備を推進し、島内の各地域から空港、港湾及び中心市街地へのアクセスを改善するとともに、集落間の交通の円滑化や住民の利便性向上に努めることとしています。現在、徳之島地域においては、主要地方道伊仙亀津徳之島空港線の井之川工区や主要地方道伊仙天城線の真瀬名工区など5地区で整備を進めているところ。今後とも、地元の方々のご協力をいただきながら、着実な整備に努めてまいります。また、徳之島地域の港湾においては、県管理港湾の亀徳港・平土野港において定期フェリーが1日1便以上往復しているところ。フェリーが接岸している岸壁は1万トン級のフェリーの他、5千トン級の貨物船も接岸が可能となっております。御要望の港湾施設につきましては、貨物量や需要、船舶の就航見込みなどを注視する必要があると考えております。県としては、定期船の安全で安定的な運航のため、亀徳港の防波堤の整備を計画的に進めているところ。今後とも、島民生活の安心・安全の確保や安全な船舶の利用が図れるよう、着実な整備に努めてまいります。	道路建設課 港湾空港課

知事とのふれあい対話（徳之島地域）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
令和4年度の畜産の算出額第2位となる鹿児島県としての今後の取り組みと構想	令和4年度の畜産の産出額第2位となる鹿児島県としての今後の取り組みと構想を伺いたい。	<p>県においては、肉用牛農家の所得向上を図るため、これまで、補助事業を活用した畜舎等の整備や繁殖雌牛の導入のほか哺乳ロボットや発情発見装置の導入促進など肉用牛の増頭を進めてきたところです。</p> <p>これらの対策により、特に徳之島をはじめとした大島地域は増頭が進み、（令和5年から）肝属地域に次いで県内第2位の子牛生産地域となりました。</p> <p>一方、近年の配合飼料をはじめとした生産資材の価格高騰に加え、子牛価格の下落等により、肉用牛繁殖経営は大変厳しい状況にあります。</p> <p>増頭が進んできた一方で、高齢の母牛が増えてきたことが課題です。</p> <p>産歴が8産を超えると子牛価格が平均価格を下回るといったデータもあり、国の補助事業を活用しながら高齢の母牛から若い牛への更新を進めて行くこととしています。</p> <p>飼料価格の高止まりに対しては、飼料自給率の向上を図るため、徳之島地域では、畜産公共事業を活用した草地や飼料畑の造成・整備や、ハカマの飼料利用等にも取り組んでいます。</p> <p>県では、これらの取組に加え、飼料作付面積の拡大や、飼料生産組織の受託面積の拡大、品種選定や収量向上に向けた栽培実証等に必要経費の支援を行うこととしています。</p> <p>さらに、子牛・枝肉価格の回復に向けて牛肉の消費拡大は重要と考えており、「和牛といえば、鹿児島県産。」のイメージの定着を図るため、「和牛日本一鹿児島」をキャッチコピーとし、食肉事業者をはじめ「和牛日本一鹿児島応援店」に登録された飲食店等にのぼり、ポスターを提供し、観光客をはじめ県民にも広くアピールに努めているところです。</p> <p>また、首都圏においては、和牛肉の需要が高まる年末年始に、首都圏主要35駅及び羽田空港において、「和牛日本一鹿児島」のPRを集中的に行いました。広告掲載と併せて令和6年12月23日～令和7年1月23日に鹿児島県産和牛プレゼントキャンペーンを実施しています。</p> <p>県としては、引き続き、関係機関・団体と連携し、肉用牛の生産振興を図ってまいります。</p>	畜産振興課
農業大学校の定員について	農業大学校について、肉用牛科が全国で25人しか受け入れがない。畜産王国鹿児島県を謳っているのなら、定員を増やすことはできないのか。徳之島から農大にいきたいという子たちもいるが、鹿児島県の農業高校の子たちがたくさん受験するため、鹿児島は難しいと感じ、沖縄とか熊本に行く子たちも結構いるので、できればもうちょっと定員を増やしていただきたい。	<p>最近の肉用牛科の充足率は95%以上あり、後継者として進学を希望されている方は多数いるものと思われます。</p> <p>肉用牛科の定員の増員については、家畜飼養施設等の収容能力に制限があり、今後の受験者数の動向も踏まえ、慎重に検討していきたいと考えています。</p>	経営技術課
サトウキビ生産に係る機器購入の助成事業について	サトウキビを育てる中で、新しい作業体系をするにも、また新しい作業機を買わなきゃいけない。自分でもメーカーが作ったものを購入したり、自分たち持っているのを改造したりして使っているが、高額なため、意欲のある方に対して支援できないか。また、ハーベスターについて、年々故障が多く、オーバーホール事業などを使って騙し騙し使っているが、機器の更新に係る費用が膨大で貯めることが出来ない。ハーベスター更新の補助事業を新しく作ってほしい。	<p>機械の導入支援につきましては、補助事業では単純更新はできないという仕組みがあるが、新しい取り組みであれば補助対象となる場合もあるためご相談いただきたいと思います。</p> <p>ハーベスターの故障については、県単独事業「さとうきび機械導入等支援事業」でハーベスターの走行機能や収穫・調整機能、選別・収納機能などの向上を支援しており、本事業を引き続き活用してください。</p>	農産園芸課
畑かん事業でのスプリンクラー設置について	畑かん事業で、スプリンクラー設置が徳之島全島で進んでいるが、湧水処理がされていない湧水の悪い畑がある。そういう畑に対し、農家の聞き取りも行った上、湧水処理も前提としてスプリンクラーを設置してほしくないか。	<p>畑地内にスプリンクラーを設置する際、工事着手前に試掘して、耕作者等に湧水状況を確認してもらい、スプリンクラー設置工事に支障となる湧水が確認された場合は湧水処理を実施しているところです。</p> <p>また、すでにスプリンクラーが設置されている畑においても、湧水処理など排水対策の要望があれば対応可能な各種事業がありますので町を通じて県に御相談ください。</p>	農地整備課
サトウキビの交付金について	サトウキビの交付金について、何十年も同じ交付金で、昔は200トンサトウキビ作れば食っていける時代と聞いていたが、今その水準では生活できない。サトウキビも値段は一緒で、全部資材、物価、肥料をとおして厳しい。どの分野でも言えることとは思いますが、その交付金の引き上げを国に沖縄県と一体になって訴えていけないか。	<p>さとうきびの生産者交付金については、「生産者が意欲を持って取り組めるよう、再生産可能な水準を確保すること」を県開発促進協議会を通じ、引き続き、国に要請しているところです。</p>	農産園芸課

知事とのふれあい対話（徳之島地域）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
施設園芸、農業用ハウス、農業用機械の補助率の引き上げについて	物価高騰で農業用ハウス、農業機械が欲しくても手が出せない。自己負担の軽減はできないか。	県では、奄美群島における園芸品目の振興を目的として、国の奄美群島振興交付金を活用し、市町村等が実施する「農業創出緊急支援事業」により、一般的な補助事業の補助率よりも高い水準で農業用ハウス整備や農業機械導入に要する経費を支援しているところです。当事業の活用につきましては、採択要件等がありますので、町や大島支庁にご相談ください。	農政課 離島振興課
輸送コスト支援について	現在大口輸送が主に事業適用されているが、小口配送ゆうパックやクロネコヤマトなどは適用されないか。年間通して多くの果物が発送されているが、組合、個人でも小口配送を利用しており、送料がかさむばかりだ。ぜひ前向きに検討してもらいたい。 時期にもよるが、せっかく丹精込めて作った作物が船便が止まれば出せなくなってしまう。 空路はコストがかかるが、気軽に輸送コストが使えることはできないか。	奄美群島振興交付金を活用して実施している奄美群島農林水産物等輸送コスト支援事業は、農林水産物等の生産・出荷に係る輸送コストを支援することにより、奄美群島における本土との流通条件の不利性を改善し、生産振興や産業振興を促進することを目的とした事業です。 宅配便（ゆうパックを含む）による輸送は、県内のどの地域から出荷しても同じ料金とされており、本土との条件不利性がないことから補助対象外としています。 また、農産物の出荷については、一般的な航路を利用した輸送を基準としています。	かごしまの食輸出・ブランド戦略室 離島振興課
輸送コスト支援について	離島として困っている点は、ばれいしょを梱包し、送るために入れる段ボールをわざわざ本土から仕入れて、それをばれいしょを詰め込んで、また送料をかけて送り返すということで高くついて負担になっている。	県では、本土より高い輸送コストを負担している奄美群島の流通条件の不利性を改善し、生産振興や産業振興を促進するため、奄美群島振興交付金を活用して、奄美群島から県本土または沖縄本島までの農林水産物の出荷や生産に必要な資材の購入に要する輸送費を助成する奄美群島農林水産物等輸送コスト支援事業を行っています。 現在、出荷支援として農林水産物55品目や、1市町村5品目以内の加工品を対象としているところです。 また、生産支援として、これらの出荷品目の生産に必要な資材について、1市町村5品目を上限に移入に係る輸送費の支援を行っており、現在、伊仙町では、ばれいしょの種子、カボチャの段ボール、黒糖焼酎の瓶を対象としています。 補助対象者については、農業協同組合だけでなく、家計を別にする農林漁業者3人以上の構成員がいるなどの一定の要件を満たした「農林漁業を営む者の組織する任意の団体」も補助対象としているので、詳しくは町や大島支庁に御相談ください。	かごしまの食輸出・ブランド戦略室 離島振興課
有機JAS認証に係る補助について	今後、有機JAS認証の農家を増やすためにも、コンサルタントのサポートやの認証費用の補助などがあればとても助かる。	有機JAS認証経費については、国において経費の一部を助成する支援策が措置されています。支援策によって要件等が設定されていることから、町を通じて大島支庁へ御相談ください。	経営技術課
大学との連携について	新規就農者不足や後継者不足の問題解決に対して、全国でも農業を専門とする大学と協定を組むというのはどうか。	本県農業の持続的発展を図るためには、新規就農者の確保や担い手の育成が重要であると認識しており、県では、新規就農者を確保するため、就農相談から就農の準備段階、就農・定着までのそれぞれの段階に応じた体系的な支援を実施しているところです。 令和2年5月に、徳之島3町と鹿児島大学が包括連携協定を締結し、農業も含む様々な地域の課題解決に向けた取組を進めていると伺っています。 今後とも、新規就農者や後継者不足といった問題を解決するため、関係機関・団体・大学とも連携しながら、農業の担い手の確保に努めてまいります。	経営技術課

知事とのふれあい対話（徳之島地域）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
県産和牛のPRIについて	<p>現状、外国人のインバウンドで多くの観光客が日本に来ているが、その人たちに少しでも牛肉を食べてもらう、おいしいというイメージを鹿児島県産で作ってもらいたい。</p> <p>そのために知事も東京、大阪、福岡、沖縄の空港、国際線、国内線に鹿児島県日本一ナンバーワンと各国の言葉で書いた垂幕を掲げてほしい。</p> <p>外国人が鹿児島県黒牛を検索して困らないようにホームページを開設してほしい。そこに全共の日本一鹿児島県のYouTubeを掲げることによってさらに実感が増すことができると思う。</p> <p>メディア、SNS、YouTubeの発信や人気youtuberとのコラボレーションにより、多くの人に鹿児島県黒牛をアピールしてほしい。</p>	<p>本県の和牛の更なる認知度向上に向けて、国内においては「和牛といえば、鹿児島県産。」のイメージの定着を図るため、「和牛日本一鹿児島」をキャッチコピーとし、食肉事業者や「和牛日本一鹿児島応援店」に登録された飲食店等にのぼり、ポスターを提供し、観光客をはじめ県民にも広くアピールし、消費拡大に努めているところです。</p> <p>首都圏においては、和牛肉の需要が高まる年末年始に、首都圏主要35駅及び羽田空港において、「和牛日本一鹿児島」のPRを集中的に行いました。広告掲載と併せて令和6年12月23日～令和7年1月23日に鹿児島県産和牛プレゼントキャンペーンを実施しています。</p> <p>また、首都圏の高級ホテル・レストランのシェフやマネージャーを対象とした産地視察を行い、鹿児島県産和牛を中心に県産農畜産物を使用したフェアを12月～2月に開催することとしています。</p> <p>海外においては、県内食肉事業者と県から構成される鹿児島県食肉輸出促進協議会で、今年度は、タイ、台湾、フランスにおける食品展示会に参加し、認知度向上、販路拡大に取り組んだところです。</p> <p>また、先般、アメリカ、香港において知事トップセールスを行い、現地の事業者等に鹿児島県産和牛の取扱拡大や販路拡大について協力を要請したところです。</p> <p>今後とも、県産和牛の認知度向上や販路拡大に努めてまいります。</p>	畜産振興課
系等除外した肥育農家の日本一決定戦について	<p>系等除外した肥育農家による鹿児島県日本一決定戦を行ってほしい。</p>	<p>本県では、肉用牛肥育技術を競い高め合う場として、鹿児島県経済連やナンチュクのほか、各市町村、JAが管内肥育農家を参集して開催する枝肉共助会など、数多くの枝肉共助会が開催されています。</p> <p>また、東京や京都、大阪など国内の主要な食肉市場で開催される全国規模の枝肉共助会において、本県肥育農家が出品した県産和牛が優秀な成績を収めており、県産和牛の全国的な知名度向上に寄与しているところです。</p> <p>肥育農家が共助会に参加するためには、食肉処理施設において食肉処理する必要がありますが、各肥育農家によって出荷先となる食肉処理施設は異なっています。</p> <p>各食肉処理施設では、それぞれの処理能力に応じて1日の受入可能頭数に制限があり、また、枝肉共助会は食肉処理施設の冷凍保管庫で開催されるため、肥育農家の通常出荷が滞らないよう調整する必要がありますが、すでに共助会等を含め年間の処理計画がある中で、県下全ての肥育農家を一斉に参加対象とした新たな共助会の開催は難しいところです。</p>	畜産振興課
亜熱帯果樹のPRについて	<p>県、市町村、生産者が一体となって、マンゴーの時期、たんかんの時期、あるいはパッションの時期などにテレビコマーシャルをしたらどうか。</p> <p>また、トップセールスで知事がイベント等に行きPRをしていただければ、亜熱帯果樹は伸び、生産者も多くなり、我々生産者の手取りの価格にも跳ね返ってくると考える。</p> <p>奄美の基幹作物のサトウキビ、畜産をはじめ亜熱帯果樹など、国を守る作物として、国防作物として位置付けようとして国にお願いして、助成・保護していただきたい。自衛隊の配置、防衛力に加え、人口を増やすことも備えになると考える。</p> <p>どうか国に要望し、この南西諸島における農業というのは国を守る作物ということで手厚く保護していただき、助成、保護していただきたい。</p>	<p>県では、大消費地の量販店等でのフェア開催のほか、調理師専門学校と連携した食の体験授業などにより、安心・安全で計画的・安定的に供給できる「かごしまブランド産品」をはじめ、県産農産物のPRを行っています。</p> <p>また、首都圏のホテル・レストランや高級果物店でのフェア及びトップセールスなどにより、県オリジナル品種や希少な南国果物といった高付加価値な産品のPRや販売促進に取り組んでいます。</p> <p>引き続き、関係団体等と連携して、これらの取組を着実に進めることで、県産農産物の認知度向上や販路拡大につなげてまいります。</p>	かごしまの食輸出・ブランド戦略室 農産園芸課
アリモドキゾウムシについて	<p>アリモドキゾウムシの話の音沙汰はなくなったが、喜界島ではどうなっているか。</p> <p>今後、徳之島でもこのアリモドキゾウムシの根絶ということを考えられるのか。</p>	<p>喜界島では、平成13年度からアリモドキゾウムシの根絶事業に取り組んでおり、現在、寄主植物の除去、誘殺剤による生息密度の低下と不妊虫放飼を組み合わせた防除を実施していますが、不妊虫の放飼数に限りがあることや、崖地など人手による防除が困難な箇所もあり、根絶に時間を要しています。</p> <p>今後とも、国や地元市町村等と連携して、アリモドキゾウムシ対策に取り組みたいと考えています。</p>	経営技術課